

Forest通信 令和2年 12

No.382

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター



高尾山の生きものたち

イノシシ (イノシシ科)



なかなか会えない動物。高尾山にも棲んでいるが、普通見ることはない。昔から狩猟されていて、警戒心が強く人前に姿を現さない。それでもイノシシの仕業で土が掘られた痕を目にすることはある。地中の餌を掘って食べるからだ。

黒褐色の身体で、下顎の歯がきば状になり、鼻が長く先端が円盤状。里山や山地に棲み、地下茎や根、ミミズや昆虫などを食べる。臭覚がよく、地中にある餌を嗅ぎわけ、鼻や牙で掘り起こして食べる。地面を掘り起こすのは畑を耕すようなもので、強い植物の勢いを止め、土の通気がよくなり、他の植物が生えやすくなる。目立たない動物だが、多様な植物が生えるために役立っているとも言える。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)

驚き桃の木！ 高尾の記

NO.3



キジョランの種を播いてみた！？

高尾山を歩いていていつでもどこでも目に付くのが、ご存じキョウチクトウ科の常緑つる性植物であるキジョラン。場所によっては群生している所もあります。

私は奥多摩や奥武蔵の山もよく歩きますが、冬でも丸い大きな葉をつけたキジョランがこれほど多く見られる山は記憶にありません。なぜ高尾山ではキジョランが多いのか、図鑑やネットで調べてみましたが明快な答えは未だ見つけられていません。

高尾山ではキジョランの芽生えも多く見られます。種は、長い白髪のような冠毛を付けた平たい形で、瓜のような形をした実から大量に出てきますが、その発芽率や生存率が高いのでしょうか？そこで、拾ってきた種をわが家で播いてみました。4粒播いて、発芽率は驚きの100%。鉢植えのためか生長はさわめてゆっくりですが、播種後約8ヶ月経った現在、4株とも病虫害にやられる心配もなく元気に育っています。キジョランの生命

力の強さを実感できました。さて、鉢の中で花が咲き実がなり種が飛び出すところまで育ててくれるのでしょうか、楽しみです。(枝)



播種後約4ヶ月で発芽

約5ヶ月後



約8ヶ月後



11月14日（土）晴天の中、公募イベント「令和2年度つるかご編み」を庁舎1階クラフト室と展示室を利用して開催しました。

つるかご編みは毎年好評のイベントで、本年度も競争率3倍を超える応募があり、その中から抽選で選ばれた20名が参加となりました。

林業において、つるは「厄介者」扱いですが、このイベントにおいては自然からの貴重な贈り物として喜ばれる存在です。

用意したつるは、既製品ではないので様々なタイプがあります。「堅い、曲がっている、太さが均一でない」のはもちろん、乾燥していくと変色したり痩せてしまうといった特徴もあります。しかし、それが天然素材の魅力であり、編み上がったつるかごは「自分だけのオンリーワン」となるのです。

最初に職員から「つるが植栽木に及ぼす影響」と「編み方」について説明があり、その後参加者は山盛りのつるの中から自分が編みたい形に見合うつるを真剣なまなざしで吟味、早速手に取って編み込みを始めました。

最初は編み方に戸惑う方もいらっしゃいましたが、要領が分かってからは皆さん黙々と編み込みを進めていました。昼休みも設けましたが、昼食を早めに済ませ、ひたすら編み上げる方も。

楽しかったひとときも終了、室内に全員の作品を並べていただき、鑑賞して閉会となりました。

編み上げの途中、参加者の感想を聞いてみたところ「編み方が分かって良かった」、「イメージとは違ったできあがりだが、これはこれで味があって良い」、「つるが植栽木の成長に支障となることを知った」などの声がありました。

「つるかご編み」イベントですが、つるを編むことだけでなく、今後も林業に興味を持って頂くきっかけになって頂ければ幸いです。（磯）



つるを選ぶ皆さん



3密を避けて編み方開始



できあがりしました



皆さんの作品を並べて鑑賞

森林教室 調布市立 富士見台小学校

11月5日（木）に、調布市立富士見台小学校5年生72名の森林教室を開催しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度初めての校外活動とのことで、児童達は森林教室を楽しみにしていたようです。朝7時半に学校を出発し予定よりも30分早く到着。「おはようございます。よろしくお願ひします」と、児童達の元氣な声で森林教室がスタートしました。

当日は、2グループに分け森林学習と丸太切り及び森林観察を交互に体験してもらいました。森林学習は3密対策のため、窓を全開し、肌寒い中での実施となりましたが、予定時間をオーバーしてしまうほどの熱気に包まれていました。

丸太切りでは、ちょっと技術を要する「薄切り」に多くの児童が挑戦していましたが、とても上手に切っていました。

森林観察では、森林の働きや治山事業等について説明するスタッフの説明に耳を傾け、ノブキやヌスビトハギなどの「ひつつき虫」や触れるとタネが飛び出すツリフネソウなどの植物に興味を示しながら観察を楽しんでいました。

閉校式での「今日は貴重な体験ができ林業に興味があった」「森林や林業について色々自分で調べてみたい」といった感想には、職員やフォレストサポートスタッフから拍手が沸き起こり、皆が一様に笑みを浮かべながらの終了となりました。（谷）



お線香のにおいがする！



植物の特徴を学習中

森林教室 調布市立 緑ヶ丘小学校

11月6日（金）日影沢キャンプ場において、調布市立緑ヶ丘小学校5年生54名の森林教室を実施しました。会場スペースの都合により、午前学習と丸太切り体験・午後森林観察のグループと、午前森林観察・午後学習と丸太切り体験のグループとの二手に分かれての実施です。

学習では、職員が森林の働きや林業についてクイズを交えて説明。児童からは「これ知ってる！」という反応もあり、事前学習済みの様子。

丸太切り体験では、慣れない鋸を使って用意された太めの丸太に挑戦。苦戦しつつも全員が体験し、自分で切った輪切りは皮をむき、各自大事に持ち帰ることにしました。

森林観察では、天然林と人工林の違い、間伐、治山ダムなど森林・林業の役割について説明を聞き、葉の形や香りを確かめながら植物を学びました。途中、かわいい子供サワガニを見つけたときは児童だけでなく先生も大喜び。

閉会式では、「興味深いことをたくさん教わりました。自分でいろいろ調べたりしてこれからも学んでいきたいです。」との感想がありました。

今回の森林教室を機会に、さらに森林に親しんで頂ければと思います。（高）



沢水に触れてみよう



持ち上げた丸太に「きゃー！重たい！」

森林教室 青梅市立 第四小学校

11月16日（月）、青梅市立第四小学校の5年生67名の森林教室を開催しました。

会場の日影沢キャンプ場に着いた児童から「おはようございます！」との元気な声。

森林学習では、地球温暖化や高尾の自然、森林の働きや林業などについて職員から説明がありました。質問タイムでは次々と手が上がり、予定時間をオーバーしてしまうほどの熱気。

丸太切り体験では、上手に鋸を扱う児童が多く職員も驚き。全員が1回目の丸太切りを終えたところで職員が薄い輪切りを作成。それを見た児童達から、「ボクもほしい」「ワタシもほしい」との声が上がり、今度は薄切りの輪切りに挑戦することになりました。

森林観察では、ノブキなど「くつつき虫」と呼ばれる植物の実を見つけては服にぺたぺた。「くつつき虫にもこんなに種類があるんだ！」との声。また、アサギマダラの幼虫と成蝶を一度に見ることができたグループは大喜びでした。

閉校式では、児童から「普段気がつかなかったこと、知らなかったことをたくさん学ぶことができた」との感想があり、最初から最後まで元気いっぱいの児童達に職員も元気を分けてもらった1日でした。（岩）



どの辺りで切ろうか考え中



この植物の名前わかるかな～

展示室・クラフト体験室 開館中

ご利用方法、休館日等詳細につきましては、当センターホームページをご覧ください。



展示室



クラフト材料



クラフト作品

編集後記

ナガバノコウヤボウキも、12月にはこのような姿に。果実の冠毛が、まるで花のよう。

高尾山の各登山ルート沿いで見ることができます。



ナガバノコウヤボウキ

Forest通信 NO.382

発行：林野庁関東森林管理局
高尾森林ふれあい推進センター



ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>